# 空港土木施設の維持管理水準に関する検討

### <空港土木施設の維持管理の目的>

空港では、航空機の安全運航及び定時性の確保を目的として、

各土木施設(滑走路・誘導路・駐機場・着陸帯等)の機能を正常に保つため、 年間を通じて、点検、清掃、修繕、除雪作業を実施しています。









### <現状の課題・問題>

着陸帯の草刈、舗装の清掃等の実施時期・頻度は、過去の実績に応じて設定されている例が多く見られます。

しかし、現場条件によって 航空機運航や空港運用に影響 する事案が発生していること から、最適な実施時期・頻度 の考え方や維持管理水準の設 定等、現場条件に応じた効率 的かつ効果的な維持管理を実 現するための調査研究を行っ ています。

#### ~ 航空機運航や空港運用に影響する事案~

- ・草刈後の草地に繁殖した バッタ類を捕食するため 鳥類が多数飛来
- ・草地に鳥類の餌となる 雑草が発生
- 航空灯火周辺の 草丈が高くなり視認性が低下
- 航空機のタイヤ跡で 路面標識が汚れ視認性が低下
- 航空機が走行する 舗装上に土砂等の異物が発生









## <維持管理水準の検討について>

各空港の現況調査の結果、以下の傾向が見られます。

- ・草地の草丈は、平均で30~70cm程度見られ、 概ね南の地域が高く、北の地域が低い
- 草地の草丈が高い要因として、芝よりも草丈が高くなる雑草が多く繁茂している
- ・舗装面の塵埃量については、特に沿岸部の空港で 多く見られるが、空港の規模による相関性はない
- ・排水溝の堆積量は、各空港とも一定の土砂堆積が 見られ、流末に行くほど堆積量が増加する

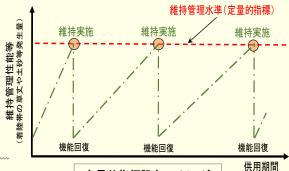
今後、各空港の維持管理状況データを収集・分析し、 維持管理水準の定量的指標の検討等を行います。



良好な環境 (雑草少ない)



見好ではない環境 (雑草多い)



洪川朔旧